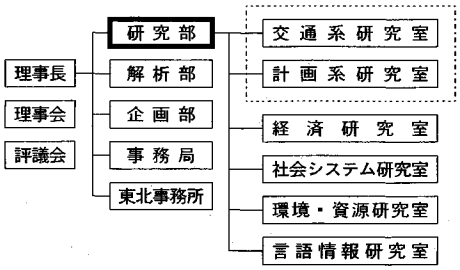
土木学会論文集 No. 494／Ⅳ-24, pp. 155~156, 1994. 7

[研究室紹介]

(財) 計量計画研究所

研究部　交通系研究室
　　計画系研究室

研究部次長　宮本成雄



IBSの組織構成

はじめに

財団法人計量計画研究所（略称IBS）は，昭和39年（1964年），東京オリンピックの年に設立された，総務庁，建設省所管の非営利の研究機関です．高度な調査研究に対応するということで，日本育英会から奨学金の返済免除団体に認められています．

昭和30年代の後半は，名神高速道路や首都高速道路の建設を契機とした日本の高速交通網の夜明け時代であり，その整備促進やインパクトへの関心，また，30年代の高度経済成長の中で，ますます増大する地域・都市問題などへの関心の高まりに対し，より科学的により総合的に，計画立案・評価を行うことの必要性が強く認識された時代でありました．IBSは，こうした時代の要請のもとに，広範な学際的頭脳を結集し，知識の集約ならびにコンピュータサイエンスの将来を展望した総合的な研究機関として，現代および将来社会に生じる諸課題に関する政策立案のための調査研究活動等を行うことを目的に設立されました．

IBSの調査研究の分野は，交通・地域・都市計画，経済・社会，環境，言語情報等社会科学全般にわたり，その活動内容は，学際的かつ総合的な調査研究をモットーに，国，自治体，公団公社，民間などを広く対象に，基礎研究，調査分析，計画立案，およびこれらに基づく政策提言へのアドバイス等となっています．

IBSは，設立当初から交通が大きなテーマの1つとしてあり，道路交通センサスやパーソントリップ調査をベースとした道路計画や将来交通量予測手法の開発，総合都市交通計画の立案，計量経済モデルによる道路整備等社会資本の効果分析等に，その基礎研究から応用まで，大きな実績を残しています．また，交通だけでなく，他の分野においても，それぞれに基礎領域から政策提言まで幅広く調査研究活動を行い，大きな実績をあげてきています．

組織体制と調査研究活動

IBSは，現在，常勤職員総勢約80名，うち専任研究員は，約40名となっています．（組織体制は図参照）．

IBSの研究活動の特色を紹介します．IBSの研究部は，現在大きく6つの研究室群に分かれ，各研究室がそれぞれにテーマをもって自主的に研究活動を進めています．研究活動の主なものとしては，受託調査研究，自主研究，学会活動などがあります．

受託調査研究では，テーマに応じ各研究室の専門スタッフからなるプロジェクトチームを構成してあたります．このチームには，大学の参画も得，研究会等の開催を通じて，より専門的に，より学際的に対応し，成果の質の向上に努めています．この研究会は，プロジェクトメンバー自身の一層の研究，啓発の場ともなっています．

自主研究活動は，研究員の創意で出されたテーマに対し，有意義と認められたテーマには積極的に支援助成しており，現在，主なものとして，「新しい交通政策・交通計画技術に関する研究」，計画に対する考え方，計画家としての“目”を養うことを目的とした「プランナーズアイ研究会」などがあります．前者は，交通政策先進諸国の情報収集をベースに研究会を重ね，また，後者は新しい都市開発等を題材にして，サロン形式でかつオープン参加での研究会（ディスカッション）を行うことで活動を行っています．いずれも，大学，外部の専門家，IBSの若手およびベテラン研究員入り混じっての研究会が積み重ねられています．これらの成果は，すでに都市計画学会のワークショップで発表していますし，また，出版して広く世に問うことも考えています．

学会活動も活発に行われています．発表・投稿・聴講・コメンテイター・事務局など種々の形で参画しています．学会活動へは，研究員誰でもが均等に参加できるよう配慮されています．

IBSの研究活動には，各研究員の自主的な研究努力が最大限尊重されるような研究環境づくりが行われており，研究員の質の向上，その結果として調査研究成果の質の向上が常に指向されています．

交通系研究室（交通研究室・交通計画研究室）

交通系研究室は，研究員12名と女性研究アシスタント6名の総勢18名からなります．

研究員は土木工学，都市工学出身が中心となり，それぞれに交通流理論，需要予測理論など交通の基礎領域専

攻の学究派から，交通シミュレーション，計画立案，政策提言など大胆にかつあっさりと成し遂げてしまう高度な計画技術を誇る職人派まで多彩な顔ぶれとなっていますが，いずれも広範な知識，高度な分析力，交通計画家としての深い洞察力をもったスタッフであり，また，同時にじっと対象と我慢強く対峙し，おもむろに解を求めていく，そんなタイプでもあります．

当研究室のテーマの1つには，パーソントリップ調査等をベースとした総合都市交通計画立案における新たな調査技術，予測手法，計画立案手法の開発などの基礎技術に関する研究があります．これは，IBSが設立当初から取組んできたテーマでもありますが，常に時代の要請に合せるべく新たな挑戦を試みています．

また，よりよい都市環境づくりと都市活動づくりに向け，交通流動と交通施設ならびに土地利用相互のバランスを考えた都市交通適正化の方向に関する理論と手法開発に関する研究も1つの大きなテーマとしています．

＜交通系研究室の調査研究活動＞

- 交通および交通計画に関する基礎的研究
  交通流理論，交通需要予測手法開発，調査手法・交通計画技術および交通適正化に関する研究など
- 都市交通計画・交通施設策定に関する調査研究
  総合都市交通計画の策定，各種交通施設計画の策定など実査，実態，分析，予測，計画，評価，効果，把握，事業計画に関する調査研究
- 政策提言
  都市交通に関する計画，管理運営，事業化などに対する提言，アドバイス

計画系研究室(地域開発研究室・都市計画研究室)

計画系研究室は，研究員10名と女性研究アシスタント6名の総勢16名からなります．

研究員は建築，都市工学，土木工学，地理など地域や都市を扱う各分野からのスタッフで構成され，地域開発や都市計画の理論に精通した理論派タイプ，地域や都市の実態を詳細に把握していく分析派タイプ，地域や都市のあり方をイメージ豊かに展開し，あざやかに事業化のシナリオを作り上げる都市計画家タイプなど，様々な技術と理論をもったスタッフであり，きれいな絵とわかりやすい筋書きで，忍耐強い説明を得意としています．

計画系研究室の大きなテーマの1つに首都圏問題に代表されるような広域レベルの地域・都市政策に関する研究，提案があります．これは，地域構造論的視点に加え，これからの住まい方，交通，さらには環境，農業との関わり等，各分野に強くこだわりをもって進めています．

もう1つは，地方自治体を中心に，長期構想から個別都市施設・地区整備に至る一連のプランニングに関わるテーマです．これはプランニングに継続的に関わることでその都市や地域にふさわしいまちづくりを進めていく実践的研究として進めています．

また，これら計画立案，政策提言のために必要となる新しい諸施策・方式に関し，新たな理論，手法の研究，開発を進め，同時に，これらに対応できるプランナーの育成も大きなテーマとしています．

＜計画系研究室の調査研究活動＞

- 地域開発・都市計画に関する基礎的研究
  地域開発・都市計画のどの開発・計画理論および開発手法，成長管理計画手法などの研究
- 地域開発計画・都市計画の策定に関する調査研究
  地域および都市のマスタープランの策定，各種開発計画，および事業計画の策定，これらの開発効果の把握に関する調査研究（実態調査から計画まで）
- 政策提言
  都市開発，地域開発，活性化等に関する手法，土地利用誘導などの方策，事業計画のあり方などに関する提言など

おわりに

IBSは，日本語名と英語名が一致していないのは何故かとよく問われます．私どもの扱う交通計画も都市計画も他の研究分野においても，人々の住まい方や生活・交通行動のあるべき姿を追求して，具現化することにあります．こうしたことを目標に，科学的・学際的かつ計量・計画的にアプローチしようとしているのがIBSです．よく“野球”と“Baseball”の違いが話題となります．ルール，道具は同じであっても2種類のスポーツが楽しめるということで，“野球”は希少価値がある？．IBSもこうありたいと所員一同願っています．

IBSは，シンクタンクとして，大学と民間のコンサルタントとの中間的役割を演じています．実践経験を重ね，別天地を求めて大学に巣立っていった研究員も数多くいます．

IBSは，自由かつ自主的研究をモットーに，そして，大学，公共，学会，民間，各方面に門戸を開き，研究内容も，そして日常生活もオープンにしています．(24時間オープン，そして土木学会の目の前にあります．是非お立ち寄り下さい．)

この7月15日にIBS創立30周年となります．社会貢献の1つの事業としてIBSフェローシップが創設されました．色々な形で一層の皆様のご指導，研究・交流が得られれば誠に幸いです．(もしこのような機会が再度与えられれば，東北事務所等他の研究室の紹介もさせていただきたいものです．)

(1994.6.14受付)